

総合戦略の 効果検証へ

八戸市総合計画
推進委員会合

八戸市は12日、市総合計画等推進市民委員会（委員長・丹羽浩正八戸学院大学長補佐）の本年度の初会合を市庁で開いた。委員会の

運営方針として、本年度は第2期市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～24年度）などの効果を検証することを確認した。

委員会は有識者ら10人で構成。市政推進課によると、本来は市の最上位計画となる総合計画も検証の対象だったが、新型コロナウイルスの影響で昨年5月から第7次総合計画の策定作業を休止していたため、本年度は総合戦略の数値目標や重要業績評価指標（KPI）について審議する。

このほか、地方創生に関する国の交付金を活用した事業の効果も検証する。委員会の意見や検証結果などは、市政の取り組みに反映させる方針だ。

一方、この日の会合で市側は、第7次総合計画の策定作業を今月中に再開し、本年度末までに策定する見通しを説明した。計画期間は22～26年度の5カ年。

（松原一茂）